



飛驒匠のDNAを受け継ぐものづくりのまち メイド・バイ飛驒高山認証

市では、飛驒高山ブランドコンセプトに合う独自性と信頼性の高い地場産品を「メイド・バイ飛驒高山認証産品」として認証しています。ものづくりの匠たちの熱い想いに触れてください。

No.13 飛驒染 (有)ゆはら染工

白銀の雪景色に映える、色鮮やかな飛驒染。飛驒で唯一の工房となった(有)ゆはら染工では、寒ざらし作業が行われています。今回は、^{ゆはらまき}柚原雅樹社長にお話を伺いました。

—飛驒染はいつ頃からあるものなの
でしょうか？

戦国～江戸時代、金森氏が京都から染物文化を持ち込んだのが始まりと言われています。

白に浮かぶ まつりの色



—飛驒染と言えばお祭りのイメージ
が強いですが？

皆さんよくご存じなのは鬪鶏染(かんかこ)の着物でしょうか。これ以外にも、法被や獅子舞の衣装、神社の大的ぼり、幕、鯉のぼりなど、様々なものがありますよ。

最近では時間を見つけて、バッグなどの日用雑貨も新たに開発しています。昨年はマスクも作ってみました！



—飛驒染にはどんな特徴がありますか？

^{もちのり}餅糊や^{ごじり}呉汁(大豆のしぼり汁)、岩絵の具など、伝統技法で染め上げるのが特徴です。

また、寒ざらしをすることで、発色が鮮やかになり、色の定着もよくなります。

—唯一の工房となった今、考えていることは？

伝統的な技法を守りつつ、新しいモノを生み出したいと思っています。

一方で、時代が変われば課題も変わる。アレルギーや環境問題なども配慮しながら、次の世代にバトンをつないでいきたいです。

—読者の皆さんにメッセージをお願いします！

新型コロナの時代。祭がないのはとても寂しいです。

今は少し我慢して、またいつかみんなで一緒になって盛り上がりたいたいですね！

1月26日は文化財防火デー

昭和24年1月26日、現存する世界最古の木造建築物「法隆寺」の金堂が炎上し、壁画が焼損しました。そこで毎年1月26日を文化財防火デーと定め、貴重な文化財を災害から守る運動を全国で展開しています。

貴重な文化財を地域ぐるみで守りましょう。

問合せ 予防課 ☎ 32-3027



義援金の募金箱を設置しています

市では、被災された方を支援するために、本庁・各支所に義援金箱を設置しています。

集まった義援金は、日本赤十字社岐阜県支部を通じて被災された方々に届けられます。

義援金名称	募金箱設置期間
令和2年7月豪雨災害義援金(九州地方へ)	3月31日(水)まで
東日本大震災	
令和元年台風第19号災害義援金	

問合せ 日本赤十字社高山市地区事務局(福祉課内) ☎ 35-3356

ふるさと納税で 飛驒高山を応援してください

飛驒高山ふるさと基金への寄附受付状況
寄附件数 21,884件
(令和2年1～12月分)

寄附金総額 **790,494,637円**

みなさんの「想い・願い」をしっかりと受け止めこころのふるさと飛驒高山のまちづくりに活かします。

1月1日現在の人口

総人口	86,665人	(-32)
男	41,449人	(-17)
女	45,216人	(-15)
世帯数	35,846世帯	(-19)

()内は前月比